

新しい牧草種子組み合わせ

アルファルファを

植生改善に活用しよう

高騰する購入飼料を極力減らす上で、自給基礎飼料の品質向上が喫緊の課題となっています。普及センターでは、毎年草地整備事業用牧草種子組み合わせを作成しています。

平成二十六年度の改定で、アルファルファの組み合わせを二タイプ追加しました。(表一)

主体のイネ科草種や刈取り回数等を考慮し、土壌凍結地帯の根釧地域に播種可能となったアルファルファ(図一)を草地更新に御活用ください。アルファルファは、タンパクを多く含み、消化性の良い繊維が確保できます。

新たな組み合わせ

(一) チモシー(中生) 主体 + アルファルファ利用

活用のポイント

混播適正が向上し、ロールベール等予乾体系に合います。アルファルファ混播きざみサイレージでは、十分な予乾が必要になります。



図1 新品种のアルファルファ

活用のポイント

(二) オーチャードグラス主体 + アルファルファ利用

オーチャードグラスは近年土壌凍結地帯向けに改良され混播適正も良好です。

出穂始めが六月十日頃で早く収穫が可能です。

三刈刈りが基本となります。播種後の初期生育がチモシーより旺盛、雑草との競合力もチモシーより優れています。(図二)

普及センターには牧草品種展示圃もありますのでご覧いただけます。(図三) 詳細はご相談ください。

表1 新たな組み合わせ

	草種	品 種 (優良品種決定年次)	播種量
			(kg/ha)
チモシー主体 アルファルファ利用 (中生種)	チモシー	アルテミス(H22)・アツケシ(H4)・キリタップ(H4)	20
	アルファルファ	ケレス(H17)・ハルワカバ(H15)	3
	シロクロバ	タホラ(H8)・リベンデル(H8)・マキバシロ(H3)・ソーニャ(S63)	2
		合 計	25
オーチャードグラス主体 アルファルファ利用 (早生~極晩生種)	オーチャードグラス	パイカル(H18)・はるねみどり(H17)・バッカス(H14)・ハルジマン(H13)・トヨミドリ(H6)	23
	アルファルファ	ケレス(H17)・ハルワカバ(H15)	5
	シロクロバ	タホラ(H8)・リベンデル(H8)・マキバシロ(H3)・ソーニャ(S63)	2
		合 計	30



図3 普及センター草種展示圃

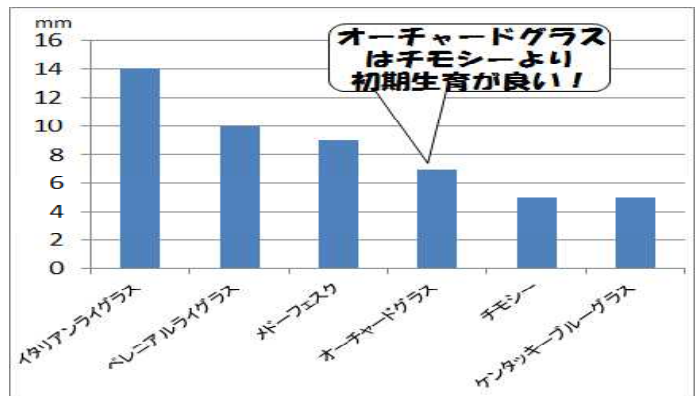


図2 イネ科草種の1日の伸び (普及センター調べ)